

発生予察情報

特殊報第1号

平成12年8月28日
秋田県病害虫防除所

ツマグロアオカスミカメによるリンゴへの加害の初確認について

平成12年6月上旬に、鹿角市のリンゴ園において、多数の小さい穴があいたリンゴ成葉が目立ち、伸長中の新梢先端部には橙色の新しい吸汁痕が多数認められた。また、果実には吸汁によるくぼみや奇形、サビの形成が多く認められた。多発園において発生量を調査した結果、被害そう率56.2%、被害果率43.4%で、被害程度が高かった。

発生圃場の新梢先端部に寄生していたカメムシ10個体を採集し、放飼試験を実施した結果、現地圃場と同様な症状が葉および果実が発生した。このカメムシの同定を北海道教育大学の安永智秀博士に依頼した結果、ツマグロアオカスミカメ *Lygocoris (Apolygus) spinolae* (Meyer-Dur) と同定された。なお、本種は以前ウスミドリメクラガメと称された種がこれに該当する。本種によるリンゴへの加害は全国で初確認である。

1 病害虫名 ツマグロアオカスミカメ *Lygocoris (Apolygus) spinolae* (Meyer-Dur)

2 作物 リンゴ

3 形態および生態

本種は、カスミカメムシ科に属し、体長5～6mmで、コアオカスミカメ *L. (A.) lucorum* (Meyer-Dur) に酷似し、光沢のある淡緑色で、背面が爪状部を中心に暗化する傾向にあり、楔状部先端は一般に黒色である。分布は、ほぼ全国的であるが、コアオカスミカメよりやや山地性で、平地、暖地では比較的少ない。ブドウ、オウトウ、ナス、トマト、ピーマン、トウガラシ、キュウリ、スイカ、ダイズ、マメ科牧草、ヨモギ等の植物に寄生する。

北海道での発生は年2回で、6月と8月頃に発生する。本県における発生生態は不明であるが、鹿角市では6月下旬頃から本種のリンゴ園内への飛来、寄生がみられなくなった。

4 被害の状況

被害程度は、同一園においても樹あるいは枝によって差があり、葉の被害量が多い樹や枝では果実の被害量も多かった。加害は、若い組織に限られると考えられ、葉での吸汁は伸長中の新梢先端部に限られた。放飼試験では、一夜で展葉中の若い葉に多数の吸汁痕を形成し、果実では放飼5日後頃に軽微な吸汁痕が認められた。

5 防除対策

- (1) リンゴの登録薬剤で本種を対象害虫としたものはないが、他害虫に対して有機リン剤やNAC剤などを散布した場合に同時防除が可能と考えられる。
- (2) 新梢先端部や果(葉) 那样的若葉への寄生が多い場合は被害が多くなる。
- (3) 落花後は果実への被害が懸念されるので、特に注意する。

【問い合わせ先】

秋田県果樹試験場 0182-25-4224
 " 鹿角分場 0186-25-3231
 " 天王分場 018-878-2251
 秋田県病害虫防除所 018-860-3420